

青少年

令和5年2月1日

塩尻市教育委員会
生涯学習部
社会教育スポーツ課・共生推進係

〔発行〕 塩尻市青少年育成センター（塩尻総合文化センター内） 電話 0263-52-0894 FAX.0263-54-2705

今年度の活動を振り返って

新型コロナウイルスの流行も、未だ終息の兆しが見えない状態の中での今年度の活動でしたが、全14班で計61回の活動を無事に終える事が出来ました。

各地区とも限られた活動回数の中で、如何に子どもたちに寄り添った活動ができるか。毎回こうした課題と向き合いながらの活動となりました。

当初は、年間活動計画の中にある「祭礼巡回」を3地区で予定しておりましたが、玄蕃祭り、平出遺跡祭りは中止、広丘夏祭りは規模縮小としての開催となりました。

現状では祭りが開催されると委員の方の中にはお祭りの役員として参加しなくてはならず、巡回に出るのは難しいとの意見もあったため、今年度は祭礼巡回を中止し、通学路の見守りなどに活動

を振り替えて実施しました。

通学路の見守り活動は実際に子どもたちとあいさつを交わすだけでなく、横断歩道の渡り方などを直接伝えられる機会となり、より子どもたちを近くで見守ることができました。

今年度は、市内の小学校で傷害事件が発生したり、交通事故や、子どもたちへの声掛



け事案も各地で発生したりしています。こうした環境の中で、子どもたちの安全を保護者や学校と連携を取りながら、地域で守っていくことが、今後一層重要と考えられます。



後を絶たない 子どもの置き去り事故

最近のニュースで、保育園バスや家用車に子どもが取り残されて亡くなるという事故が報道されています。

いずれも大人の思い込みにより、確認を怠ったことが原因と思われるものがほとん

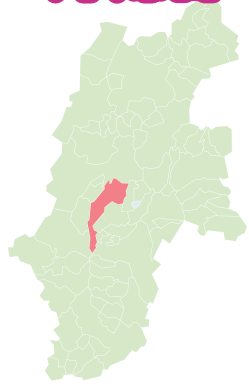
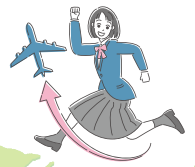
どようです。このような痛ましい事故がこれ以上起きないように、日頃から私たちにもできることがあるのではないのでしょうか。

青少年育成委員の区ごとの活動に、ゲームセンターや商業施設の巡回が含まれる地区では、各施設内だけでなく、駐車場も回って車内に子どもだけが乗っている状況がないか確認をしています。こうした活動が抑止力となり、子どもたちを事件や事故から守ることができるかもしれません。

市民の皆様にも活動へのご理解と、ご協力をお願い致します。

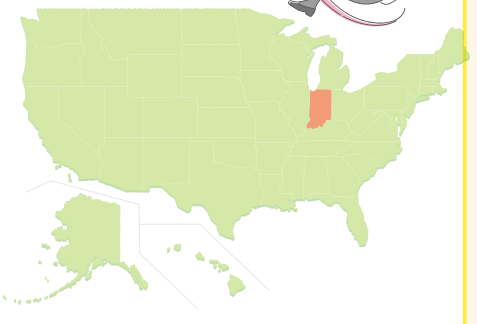


姉妹都市ミシワカ市 青少年派遣事業



塩尻市では昭和60年から姉妹都市交流事業が実施されています。目的は姉妹都市ミシワカ市民との交流によって国際的視野を広め、豊かな心と活力にあふれた郷土づくりの担い手となる青少年を育成することです。

令和4年まで全29回、計102名がミシワカ市へ派遣され、今年には3人の市内在住の高校生を派遣して、無事に帰国し、後日、市長、教育長へ報告会や派遣報告書の展示が実施されました。



令和4年度 派遣者

今泉 りお	松本深志高等学校	2年生
滝沢 友理	諏訪清陵高等学校	2年生
近藤 咲	松本県ヶ丘高等学校	1年生



派遣期間

10月28日から11月4日まで

令和4年度 姉妹都市ミシワカ市青少年派遣 日程

日程	旅程
10/28(金)	■ 塩尻駅出発 → 成田空港 → アメリカ合衆国 ミシワカ市 到着
10/29(土) 10/30(日)	■ ホストファミリーと交流 (自由行動) ホームステイ
10/31(月)	■ ミシワカ市役所やペン=ハリス公共図書館の塩尻ルームを見学 ■ ミシワカ高校や塩尻庭などの見学
11/ 1(火)	■ 姉妹都市コミュニティメンバー、ミシワカ市教育長、ホストファミリーと派遣者全員で食事を兼ねた交流会
11/ 2(水)	■ 名門私立ノートルダム大学やジョン・ヤング中学校へ訪問 (現地学生との交流)
11/ 3(木)	■ サウスベンド空港 出発 ✈️
11/ 4(金)	■ 成田空港 → 塩尻駅 到着



《塩尻庭》

《交流会》



《サウスベンド空港》

～ 派遣を終えて～

今泉 りお

言語の壁を痛感しましたが、とてもいい経験になりました。

滝沢 友理

ミシワカ市民の塩尻愛を知り、塩尻市民として誇らしかったです。

近藤 咲

現地の方と交流し、貴重な経験ができました。

ジュニア・リーダー 養成事業

この事業は、地域の活動の中心役割を担う人材育成のため、市内在住の小学校4年生と5年生の児童を対象にジュニア・リーダーとして育成することを目的としています。

コロナ禍により、開催を見送っていましたが、今年度は2年ぶりに開催し、13名の候補生とともに全6回の研修を行いました。

第1回目はジュニア・リーダーの役割について理解を深め、第2回は普段の生活の中でどんな危険が潜んでいるかを学ぶ危険予知トレーニングや実際に危険予知を意識しながらの自然の中でネイチャーゲームを実施しました。

第3回から第5回は今年度から新たに企画をしたSDGsについての研修を実施しました。

SDGs17の目標をクイズやカードゲームなどで学び、食品ロスについて個人で調べて発表をするといった内容でした。

第6回の研修会では作文発表として「みんななかよく」を題名に今回の研修で学んだことや講師の先生へのお礼を含めた作文を発表しました。

令和4年度 研修内容

日程	研修名	会場	内容等
4~5月	募集	——	——
6/19(日) 13:30~16:00	開講式& 第1回研修会	塩尻総合文化センター 302多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式典 ・オリエンテーション（仲間づくり） ・ジュニア・リーダーの役割理解 講師：特定非営利活動法人わおん
7/2(土) 13:00~16:00	第2回研修会	げんすけの森 柏茂交流会館	<ul style="list-style-type: none"> ・危険予知トレーニング講習 ・ネイチャーゲーム 講師：特定非営利活動法人わおん
8/6(土) 13:30~16:00	第3回研修会	塩尻総合文化センター 302多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・「SDGs」とは・・・ SDGs17の目標クイズにチャレンジ 講師：2030SDGs公認ファシリテーター 丸山 亜希
9/18(日) 13:30~16:00	第4回研修会	塩尻総合文化センター 302多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsが自分ゴトになる 食品ロスについて 講師：2030SDGs公認ファシリテーター 丸山 亜希
10/23(日) 13:30~16:00	第5回研修会	塩尻総合文化センター 302多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・2030 SDGs カードゲーム カードゲームでSDGsの本質を学ぶ 講師：2030SDGs公認ファシリテーター 丸山 亜希
11/20(日) 13:30~14:30	第6回研修会 閉講式&報告会	塩尻総合文化センター 302多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・閉講式式典 ・修了証授与 ・報告会（作文発表）



《ネイチャーゲーム》



《SDGs研修》



《SDGs研修（カードゲーム）》

令和4年度 青少年健全育成 3団体合同研修会開催

今年度も青少年育成委員協議会・子ども会育成連絡協議会・少年警察ボランティア協会同研修会を開催しました。今回の研修は、7月にオンラインで開催された、長野県青少年補導センター・同補導委員会両連絡協議会研修会を録画したものを視聴する形で実施しました。

近年横行する、「電話でお金詐欺」に青少年が加担している実情や、SNSでの自画撮り被害の増加といった少年非行の概況などについて、3部構成での研修となりました。青少年を取り巻く環境が年々変化していく中、長引く新型コロナウイルスの流行もこういった問題を一層複雑化させています。

その他の今年度の主な活動

- 4月 塩尻市青少年育成委員協議会総会
- 5月 長野県青少年補導センター・同補導委員協議会 第1回理事会
- 6月 ジュニアリーダー養成講座(6月～11月まで全6回)
- 7月 第47回長野県青少年補導活動推進大会 合同研修会
- 8月 第1回情報モラル講座(塩尻東地区) 青少年健全育成3団体合同研修会
- 9月 第2回情報モラル講座(高出地区)
- 10月 青少年補導委員会会長・同補導センター所長研修会
第3回情報モラル講座(宗賀地区)
- 11月 中信4市青少年補導センター連絡会議(大町市)
- 12月 長野県青少年育成県民大会(飯田市)

子どもたちが安心して居場所づくりや、相談できる環境づくりを、保護者や学校、地域が協力して行い、社会で子どもたちの成長を見守り支えていくことが求められています。



塩尻市青少年育成委員協議会

会長 薄田 利秋

「見守り・声掛け 学びの場」

忘れられない出会いがありました。

ある秋晴れの午後3時過ぎ、水曜日の二斉下校時、小学生が合流する交差点でPTAと一緒に見守り、声掛けをしておりました。小学生に「お帰りなさい」、「今日も頑張ったね」、「気を付けて帰ってね」と声を掛けると「さようなら」、「見守りありがとう」と元氣な返事。そのまま、3メートル程進んだところで一人の2年生の女の子が通学路上で何かを見つけて拾い上げたと思ったら、急いで私のところへ戻ってくるではありませんか。

「おじいちゃん、これ」と言ってお手さぐりに握り締めたかわいい手を広げると、なんと中には粒の柿の種。その表情は何かとても大事

なものを見つけたと誇らしげ、誰かにそれを見せてあげたい、という明るい笑顔でした。「へえー、いいものを見つけたね。これ柿の種だと思っよ。土に埋めておけば芽が出るかもしれないよ。」と褒めると、嬉しそうにならず、足取り軽く帰っていききました。

ここ数年の活動から、「見守りは登下校時における危険から児童を守る」という一方的な活動とは捉えていません。なぜなら、前述の事例のように、私たちは子どもの新発見の喜びやみずみずしい感性から学び、また子どもたちも誉め言葉や会話から何かを学ぶ良い機会と思うからです。

貴重な交流の場、新鮮な驚きや感動が生まれる多様な学びの場のひとつと考えています。

私たち青少年育成委員63名は14班に分かれ、見守り・声掛け、あいさつ運動、巡回などの活動を展開しています。子どもたちが集まる場所に活動の重点を置き、対面、対話など子どもたちと直接的コミュニケーションを大切にしています。取り巻く環境が刻々と変化しています。情報通信技術がますます拡大、活用される一方、地域コミュニティの衰退、人と人とのつながりの希薄化が課題となっています。

神は細部に宿るといいます。例えば小さな対面の交流、会話であっても、子どもたちと接することは楽しみでもあり、私たちの継続的な活動が地域の安全や子どもたちの成長に繋がるよう努力します。